

平成 25 年 4 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社 鉄 人 化 計 画
代 表 者 名 代表取締役社長 日野 洋一
(コード番号：2404 東証マザーズ)
問 合 せ 先 常務取締役管理本部長 浦野 敏男
(Tel. 03-5726-8440)

平成 25 年 8 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 4 月 9 日開催の取締役会において、平成 24 年 10 月 12 日に公表いたしました平成 25 年 8 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、通期業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

● 平成 25 年 8 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績との差異について

平成 25 年 8 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,114	224	160	36	1,190.67
今回実績 (B)	4,928	181	140	12	418.73
増減額 (B-A)	△186	△43	△19	△23	
増減率 (%)	△3.6	△19.2	△12.3	△64.7	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 8 月期第 2 四半期)	4,566	298	249	183	5,737.68

平成 25 年 8 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,587	138	37	1,198.87
今回実績 (B)	4,406	86	△11	△361.40
増減額 (B-A)	△180	△51	△48	
増減率 (%)	△3.9	△37.5	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 8 月期第 2 四半期)	4,071	207	169	5,298.50

差異の理由

第 2 四半期累計期間においては、主力事業であるカラオケルーム運営事業の新店が当初計画どおりに出店されたものの、最繁忙期である年末年始の忘年会・新年会の需要が期待程度に伸びなかったこと、一部の地域における競合出店によりシェアが減少したこと並びにオリジナルコンテンツの確保や「カラオケの鉄人」ブランドの構築に対する先行投資として販管費が増加したことを主な要因として営業利益面で当初見込んだ収益の確保に至りませんでした。

また、台湾子会社（鐵人化計畫股份有限公司）において、設立時の目的の一つであった店舗運営事業に必要な機能（店舗用不動産確保、人材確保、商材確保等）のノウハウをこの 2 年間で概ね構築できたものと判断し、同社の 12 月決算時において「のれん勘定」44 百万円を一括償却したことで四半期純利益が影響を受ける結果となりました。

● 平成 25 年 8 月期通期業績予想の修正について

平成 25 年 8 月期通期 連結業績予想数値の修正（平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	10,504	575	458	176	5,712.97
今回修正予想 (B)	10,041	422	363	116	3,760.00
増減額 (B-A)	△463	△153	△95	△60	
増減率 (%)	△4.4	△26.6	△20.8	△34.0	
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 8 月期)	9,358	532	447	174	5,516.63

平成 25 年 8 月期通期 個別業績予想数値の修正（平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,421	391	163	5,298.54
今回修正予想 (B)	8,969	299	111	3,598.37
増減額 (B-A)	△451	△91	△52	
増減率 (%)	△4.8	△23.4	△31.9	
(ご参考) 前期実績 (平成 24 年 8 月期)	8,280	349	143	4,538.11

差異の理由

平成 25 年 8 月期通期業績見込みについては、足下での円安・株高による影響により景気の早急な回復が期待されているものの、個人消費、特にレジャー消費の需要が好転するまでにはタイムラグがあるものと判断しており、また、競合環境もシェア獲得で一層厳しい状況になると思われま

す。これらを踏まえて、カラオケルーム運営事業においては、既存店での売上を上期程度の傾向値での業績へ修正いたします。その他の事業につきましては、概ね期初予想程度の業績を見込んでおります。

※上記の業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

以 上